

日野を学び、日野で学び、日野から学ぶ

日野町	活動名：日野・鎌掛地域学校協働本部	日野小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
<p>地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成29年度 地域学校協働活動推進員等数：1人(兼務1人) ボランティア登録数：50人 <input checked="" type="checkbox"/>学習支援(授業補助、学力補充等) <input checked="" type="checkbox"/>図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) <input checked="" type="checkbox"/>学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/>子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/>部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/>学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/>学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/>地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) <input checked="" type="checkbox"/>地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/>ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/>郷土学習 <input type="checkbox"/>その他[]</p>			

■ 事業を考案する主体(該当するすべてに■印)

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他()

■ 学校運営協議会での主な協議内容と活動への反映

○学校運営協議会のあり方

・将来的には学校主導の会議からの転換が目標。地域がめざす「日野小学校の子ども像」を具体的な文言でまとめ、地域に発信していきたい。また、「動ける組織」として活動につなげていきたい。

○子どもとの意見交流

・子どもたちの意見を活動に取り入れてはどうかとの提案があり、学校代表児童との意見交流の場を設定した。子どもたちからは「そうじの仕方を教えてほしい」、「児童会主催の行事を見に来てほしい」との声が届けられた。

■ 「つながるよさ」を生み出した活動(特徴的な活動)

○俳句教室(6年)

・地域の俳句愛好グループに指導を依頼。校区内の寺社を吟行で訪れるとともに、感じ取ったことをもとに作句を行った。完成した句は、地域行事に出品し展示していたことで、多くの方々に発信することができた。

○日野菜学習(3年)

・JA 職員の方や地域の方から日野菜の種まきのご指導をいただいた。また「日野菜を地域の方々に広めたい」「日野菜をもっとおいしく食べてもらいたい」という思いから、日野菜の新たな料理レシピを考案し、地域に向けて発信した。

○図書ボランティア

・毎週火・木曜日に、子どもたちが読書活動に関心を高めるための環境整備作業を中心に活動をしていただいた。

○家庭科ボランティア

・日赤奉仕団(日野分団・鎌掛分団)の方々が、各クラスに1~2名ずつ来校いただいて、手縫いやミシン縫いの方法や、安全に作業できるための見守りなど、5・6年生の裁縫活動について支援をしていただいた。

○なかよしコンサート(年2回開催)

・地域で音楽活動をされているグループを招き、昼休みにコンサートを開催。(ウクレレ演奏、タップダンス)

○中庭花壇の花植え

・協議会メンバーの呼びかけに応じた地元有志の方々が集まり、中庭の花壇に花の苗を植えていただいた。



【 道具を使って日野菜の種まき 】



【 有志による花壇の苗植え 】

■ 事業の成果・展望

○教職員は、事前にかかるさと絆支援員(地域学校協働活動推進員)と学習活動の全体計画を作成する中で、関係機関の思いを大切にしつつ、学校として育てたい子どもの姿やつけたい力を明確にし、学習の質が高まるようにした。

○地域教材の開発に取り組むにあたり、その目的や意義を熟議して確認するとともに、より幅広く人材を活用できるよう努めた。

○学習活動の成果を広く発信することで、地域の方々へ学校教育活動に関心をもってもらえることができた。新規に学習活動に携わってくださる方々も増え、学校側のねらいを踏まえて子どもたちに関わろうとしてくださっている。

○地域で活躍する方々とつながることのできる活動を計画、実践することで、子どもたちが地域の方々やその活動に気づき、より身近に感じるすることができた。学校での活動(子ども)を通して、地域と家庭とが関わる機会となった。

○子どもたちからの意見も参考に、地域と学校とともに「育てたい子ども像」をしっかりと定めた上で事業を展開していきたい。

○子どもと地域の方が関わる場が少ない。学校運営協議会委員の方々が起点となって、地域の方を学校に呼び込めるような仕掛けを考えていきたい。

■ 協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに■印)

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他(各学年担当教職員)

報告書記入者(教頭)

学校・家庭・地域の ～きずな・つなぐ・むすぶ～

日野町	活動名：西大路地域学校協働本部	西大路小学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成29年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：30人 <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援(授業補助、学力補充等) <input type="checkbox"/> 図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他[]		

■ 事業を考案する主体(該当するすべてに■印)

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他()

■ 学校運営協議会での主な協議内容と活動への反映

- ・幼・小・公民館で連携した取組
- ・3年生 総合的な学習「名人さんに弟子入り」の取組
- ・環境整備作業、幼小合同運動会(地区運動会 同日開催)準備等の取組



【 4年生 国語科
「くらしの中の和と洋」座談会 】

■ 「つながるよさ」を生み出した活動(特徴的な活動)

(1) 公民館での学習発表会・座談会(4・5年生)

国語科で学習したことを地域の方にきいてもらおうと、4年生と5年生で公民館にて学習発表会を行った。多くの保護者や地域の方が参加くださり、直接感想やアドバイスをいただくことができた。

(2) PTAふれあい学習会

PTA 主催で「防災トイレ」について学ぶ活動を行った。地域の防災士を講師に招き、多くの保護者とともに学ぶことができた。

(3) 総合的な学習(3年生「名人さんに弟子入り」)

3年生の児童が、総合的な学習「名人さんに弟子入り」の学習を通して、直接体験を通して学ぶ学習を行った。(日野祭り囃子、郷土料理づくり、丁稚ようかんづくり)
この活動により、地域のよさを学び、愛郷心を育むことができた。

(4) 環境整備作業

毎年、2学期開始直前に行っている環境整備作業へ保護者とともに参加して活動していただいた。

■ 事業の成果・展望

年度末に、総合的な学習の活動年間計画を見直ししながら、地域の方々が関わってくださる活動について、単発で実施されないように進めている。

打合せについて、これまでコーディネーターが中心となってきたが、各学年の教職員がより主体的に関わることで、学校側のニーズと地域の方々の思いをすりあわせながら、活動を実施することができた。

今後もこれまでの地域人材との関係継続や、新たな人材へのアプローチを行い、よりよい事業として広げていきたい。



【 3年生「名人さんに弟子入り」 】

■ その他

学校運営協議会は、年間5回の会議を開催し、それぞれの立場から様々な意見を交換し合い、相互理解を深め、課題解決に努めている。今後は、さらに多くの地域の方に協力していただき、組織としての取組を考えていきたい。

■ 協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに■印)

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他(各学年担任)

報告書記入者(教頭)

「南比がすき」～地域と家庭と学校がともに子どもたちを育てるために～

日野町	活動名：南比都佐地域学校協働本部	南比都佐小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成29年度 地域学校協働活動推進員等数：1人(兼務1人) ボランティア登録数：約50人 ■学習支援(授業補助、学力補充等) ■図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 □学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) ■地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他[]			

■ 事業を考案する主体(該当するすべてに■印)

■学校・園 ■学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 □行政 □その他()

■ 学校運営協議会での主な協議内容と活動への反映

- ・年間6回の会議を開催。昨年度の課題であった学校の魅力アピールの取組として、学校の地域学習年間計画を地域の皆さんに共有し、多くの地域の方に学校に関わっていただくための広報誌を発行する。
- ・子どもや教職員と地域とともにある学校づくりについての交流会を実施する。
- ・「南比コミュニティ・フェスティバル」をよりよく実施するための協議を行う。
- ・学校経営管理全体計画についての検討や、今後も持続可能な学校運営協議会にするための人材確保について協議を進める。

■ 「つながるよさ」を生み出した活動(特徴的な活動)

○地域の「大人」から学ぶ

- ・本校は、地域の「深山口日野菜原種組合」から、子どもたちの日野菜栽培の指導に協力をいただいている。全校児童が日野菜を植え、育て、収穫し、日野菜漬けにして食するまでの日野菜学習は、「日野菜カリキュラム」として平成14年から継続して進められている。今年は3年生が「日野菜博士になろう」と学習のめあてをたてて、原種組合の方から指導の他、深山口の種を使って栽培を続けている鎌掛地区を6年生が訪問し、持続可能な日野菜栽培について学びを深めた。
- ・地域の歴史の学習や、釘の打ち方、手縫いやミシンを使った縫い方、様々な分野で地域の方に学校に来ていただき指導をお願いしている。今年度は夏休みに教職員対象の「ふるさと学習研修会」も実施し、南比都佐の各地域を訪問してふるさと学習の見聞を深めた。



【 持続可能な南比をつくる意見交流会 】

○南比コミュニティ・フェスティバル「名人さんに弟子入り」

- ・今年度も地域と学校とのつながりを深めることを目的に開催した。まず、子どもたちが生活科や総合的な学習の時間で学んだことを発表した。今年度も地域に焦点を当てた発表が多く、また事前から地域の人や保護者に意見を聞き、内容を深めてきた学年もあり、交流が深まる学習参観となった。後半の地域の方に教わる「名人さんに弟子入り」は、「竹工作」、「布小物」、「茶道」、「毛糸手芸」、「木工教室」、「クレヨンアート」、「米粉蒸しパン」、「江州音頭」、「ニュースポーツ」の9つのコースを設定した。体験の中で地域の先生たちとの交流を深めてほしいと60分間という時間設定のもとでじっくり体験し、どのコーナーも充実した時間を過ごすことができた。



【 江州音頭の体験 】

■ 事業の成果・展望

- ・地域の方々に学校に来ていただき、子どもと関わる機会を増やしたことで、新規の方々が協力してくださった。子どもたちの学びに関わっていただく中で、「子どもたちの学びにもっと関わりたい」と感じてくれた方が増えてきた。また、子どもも学区のおじいさんやおばあさんと交流することで「地域のために何かしよう」、「この地域をもっとよくしたい」という思いが生まれてきた。
- ・公民館で開催された新年祝賀式では、6年生の子どもたちが「こんな南比都佐にしたい」というプレゼンテーションを地域の代表者に発表した。子どもを思いや願いをもっと地域に広めようと、さらに公民館を会場に6年生の探求学習の発表会を開催し、子どもたちが広めたいという地域野菜や5年生が収穫した南比米の販売を、子どもたちが地域の人に販売する機会をいただくことができた。
- ・担任から地域の人に教えていただきたい内容の具体を聞き取り、公民館や地域コーディネーターを介して、活動にふさわしい人を紹介いただくことで、子どもたちの学びが深められた。
- ・マラソン見守り隊やかけ算ボランティア、南比コミュニティ・フェスティバルの実施に当たっては、地域の方への広報のために、地域の区長会等に協力を依頼したことで新たな人材を確保できた。

■ その他

- ・児童数の将来的な減少と周辺道路の走行車両の増加に伴い、登下校時の安全確保は喫緊の課題である。学校、保護者、地域が課題意識を共有し、今後も通学路安全点検・危険箇所点検や見守り等の対策について協議していきたい。

■ 協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに■印)

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 ■その他(各学級担任)

報告書記入者(教頭)

地域ぐるみで子どもを見守り、学校を支援する協働活動のために

日野町	活動名：必佐地域学校協働本部	必佐小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：令和5年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：46人 <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援(授業補助、学力補充等) <input type="checkbox"/> 図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他[]			

■ 事業を考案する主体(該当するすべてに■印)

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他()

■ 学校運営協議会での主な協議内容と活動への反映

今年度、学校運営協議会で学校と地域の課題解決に向けて熟議をしてきた中で、「子どもの見守り部会」と「学び支援部会」の2つの部会に分かれて協議を進めてきた。「子どもの見守り部会」では、ふるさと学習の年間一覧表を作成することが決定した。また、地域ボランティアの数が少ないため、学校ボランティア募集の配信をすることになった。「学び支援部会」では、ゲームをする時間が長いために、家庭学習の時間が短い子どもが多いという課題が挙げられた。そこで勉強が苦手な子が「やってみよう」と思えるような支援を部会で検討することになった。協議した内容が実現できるように、さらに熟議する必要がある。

■ 「つながるよさ」を生み出した活動(特徴的な活動)

(1) あいさつ運動

登校時間帯に、日赤奉仕団や地域の女性会の皆さんが交代で校門付近に立ち、あいさつ運動に取り組んだ。子どもたちに声をかけていただいている。

(2) 体験的な学習への支援

田植え・稲刈りなどの指導を地域の方をお願いした。家庭科の裁縫やミシン縫いなど、個別の支援を必要とする学習での支援をお願いした。

(3) 学習支援

地域で日野菜を栽培・販売をしておられる方に依頼をして、日野菜の種まきや収穫の支援をしていただいた。地域の特産品を知る経験として、今後も大切にしていきたい。



【 日野菜 種まき支援 】

■ 事業の成果・展望

- ・あいさつ運動を続けてきたことで、地域の方々とも子どもたちとのつながりが増えてきた。あいさつ運動に参加をした地域の皆さんが、学習ボランティアとして学校へお越しいただけるきっかけにもなった。
- ・地域学校協働活動の事業や学校運営協議会の進行等、コーディネーターや地域が主導できるような体制を整える意識改革が必要である。
- ・地域におられるボランティアの方が十分に把握できていない。今後も引き続き人材の開拓に努めていく必要がある。指導者の思いや指導方針をもとにしつつ地域学校協働活動推進員からの提案も織り交ぜながら打合せを綿密に行う必要がある。

■ その他

学校運営の様子や子どもたちの学習の様子を下記記載の URL で紹介している。
<https://www.fureai-cloud.jp/hissa-es/>



【 裁縫の支援 】

■ 協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに■印)

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他()

報告書記入者(教頭)

「好きです！桜谷」と自信を持って言える子に育てる

日野町	活動名：桜谷地域学校協働本部	桜谷小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに <input checked="" type="checkbox"/> 印 開始年度：平成29年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：100人 <input type="checkbox"/> 学習支援(授業補助、学力補充等) <input type="checkbox"/> 図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input checked="" type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他[]			

■ 事業を考案する主体(該当するすべてに印)

学校 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他()

■ 学校運営協議会での主な協議内容と活動への反映

○小学生と高齢者がふれあえば、相乗効果で地域も活性化する。学校の敷居を低くし、地域の方が学校に来やすい雰囲気が必要である。コミュニティ・スクールが地域住民の生きがいになれば、地域も学校も盛り上がるであろう。
 →「学校を核とした地域力強化プラン」について、その理念を地域も学校もしっかりと理解することが重要であり、周知の機会が必要である。
 →学校支援者と教職員が「顔見知り」になることが大事である。教職員は誠意を持って学校支援の依頼を行い、支援者の来校時にはしっかりと挨拶をし、支援内容を適切に説明し、最後にお礼を伝えるなどの基本姿勢を今一度見つめ直したい。
 →支援者に気持ちよく学校に来ていただけるよう、地域学校協働活動推進員を主な窓口にして綿密な打合せを行った。また、特定の学年の支援であっても「学校として支援を依頼している」ことを教職員が意識し、支援者を迎えるようにした。
 ○学校ボランティアが高齢化しているが、新たな人材を本協議会でも探していきたい。
 →学校でも、これまでお世話になってきた支援者には継続してお願いしつつ、保護者をはじめ比較的若い世代に学校支援のアンケートを行い人材発掘に努めた。
 →公民館では夏休み期間中に工作や大工体験等の子ども事業を行っている。手芸クラブや健康推進員など地域の力を学校教育に生かすために、公民館にも声かけを行いたい。

■ 「つながるよさ」を生み出した活動(特徴的な活動)

今年度も地域の方と児童・教職員が、学校支援という「つながり」を持って活動できた1年間であった。5月の田植えとさつまいもの苗植えから始まり、ソーイング学習や音楽体験、稲刈りやさつまいも掘り、日野町が原産とされる日野菜栽培や日野菜漬体験、日野の伝統料理づくり体験、シイタケの菌打ちなど地域に根差した体験学習をたくさん取り入れた。

また、学習支援だけでなく今年度も環境整備を実施した。学校運営協議会の呼びかけで、例年実施のPTA主催の奉仕作業や同窓会主催の草むしりの他に、運動会前の環境整備作業を実施することができた。

このように、地域の方による手厚い支援を受けているのが本校の特長であるが、学校が地域の方に働きかけていく「双方向の取組」を模索しているところである。その一環として、森のレストラン(収穫祭・お礼の会)を今年度も開催した。昨年度はコロナ禍以来4年ぶりの開催であったが、その時の経験もあり、子どもたちは見通しを持って参画することができた。地域の方とともに作り上げた、本校自慢の裏山での会食を行い、「つながるよさ」を感じることができる楽しい交流の時間となった。



【 サツマイモのみそ汁でもてなす 】



【 自慢の裏山でレストラン開店 】

■ 事業の成果・展望

日野町においても、また本校においても「ふるさと学習」を推進している。昨年度までの本校創立150周年記念に向けての取組において、そのスローガンは『「好きです！桜谷」と自信を持って言える人』であった。周年事業を終えた今年度はさらにそのスローガンに近づくことができたのではないと思う。学校における学習支援等をおして、地域の方のさまざまな人柄や行動にふれることにより、これまで以上に、児童は地域の方に大事にされていることを実感し、郷土を愛する気持ちが育ってきたのではないかと考えている。

■ 協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに印)

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他(教務主任)

報告書記入者(教頭)

日野町の方々の温かい人情に触れながら協働する豊かな教育活動

日野町	活動名：日野中学校地域学校協働本部	日野中学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに <input checked="" type="checkbox"/> 印 開始年度:平成30年度 地域学校協働活動推進員等数:1人(兼務1人) ボランティア登録数:70人、11団体 <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援(授業補助、学力補充等) <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) <input type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input checked="" type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他[]		

■ 事業を考案する主体(該当するすべてに印)

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他()

■ 学校運営協議会での主な協議内容と活動への反映

- ・多様化している生徒の現状を踏まえ、地域としてどのような支援や取組が可能かについて意見を交わした。
- ・生徒会と協働で実施している「あいさつ運動」に、本年度も学校運営協議会の皆様にご参加いただいた。
- ・地域学校協働活動への理解を深めていただくとともに、学校運営協議会委員の皆様がこれまでの豊富な経験を通して築いてこられた人脈を生かし、協力をお願いできる人材について協議していただいた。



【 1年生 地域探究学習 】

■ 「つながるよさを」生み出した活動(特徴的な活動)

(1)読み聞かせグループによる朝の読み聞かせ

毎週火曜日に、地域にある4つの読み聞かせグループの皆様と司書の方が交代で来校し、各教室で読み聞かせを行っていただいている。本活動は小学校から継続して実施しているものであり、ボランティアの方々にとっても生徒にとっても、親しみのある取組として定着している。

(2)地域の各分野の専門家による地域探究学習

文化・歴史・自然・環境・商業・観光の各分野に、6名の専門家を講師として招き、講話をしていただいた。生徒は「ふるさと日野」について学んだ内容を模造紙に整理し、互いに発表し合った。講師の方々は、いずれも日野町の各専門分野のスペシャリストであり、中学校での講演に熱意を込めておられ、その熱意は生徒にも確実に伝わっており、授業では活発な意見交換が行われた。

(3)地域人材による授業支援

合唱コンクールの学級練習で地元合唱経験者の方に来ていただき、効果的な練習を行うことができた。地域の書道家の方に音楽室に掲示する校歌を書いていただき、歌詞は合唱前の発声練習の助けになった。体育科での少林寺拳法の指導者の方々に技術指導や、道徳科におけるレスリング指導者による講話など、夢に向かって努力を重ねてこられた人生にふれる機会は、たいへん学びが多いものであった。人権学習では地域の福祉施設「わたむきの里」の職員の方に来ていただき、体験から得られる貴重なお話をいただいた。



【 校歌の歌詞 】

■ 事業の成果・展望

中学校では朝の読書タイムや授業などに、多くの地域の方に来ていただき、それぞれの分野で活躍されている方々にお力を貸していただいた。小学校から引き続きよく出会う地域のおじさん、おばさんとして親しんでおられる方であったり、豊かな経験や知識をもつ方々であったり、教職員でない大人とのふれあいは、豊かな教育活動として、生徒たちの心にプラスに作用していると思われる。

人権学習後の生徒の感想文では「講演前の僕よりも考えが深まり、考えるのが大切なのがわかった。」「人にはそれぞれの個性があるけれど、その個性が人の助けになることがあるので、その個性を大切にしていきたい。人はその生まれている時点でえらいと思う。この両親からもらった命を大切に生きていきたい。」などとあり、生徒が心の深いところで感銘を受け、一生懸命に考えている様子が感じられた。また福祉施設の所長も、中学校での人権教育に関わることを喜んでおられ、双方にとってよい活動であった。人権学習では学年の先生方と綿密な打合せを行い、生徒の現状を踏まえ、学校側からの思いを十分に伝え、講師もその思いをくみとお話していただいたという経緯がある。忙しい中学校の教育現場では、いつもこのように時間をとって準備をすることは難しいが、打合せの重要性を感じた取組であった。

現在行っている活動を推進するとともに、新たな地域人材を見つけ、教職員の要望と地域の方々の思いが重なるような活動を今後も模索していきたい。

■ 協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに印)

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他(各担当教職員)

報告書記入者(地域学校協働活動推進員)